

## Kanagawa Library Association

巻頭言 神奈川県図書館協会だからこそ	1
平成31年度神奈川県図書館協会総会開催報告	2
表彰受賞者	3
事業計画・予算・研修計画	4
役員名簿・委員会名簿	5
神奈川県図書館協会 !人材育成事業 はじまります!	6

## 神奈川県図書館協会だからこそ

神奈川県図書館協会副会長 鶴見大学図書館長  
元木 章博

日本学生支援機構によれば、2018年5月1日現在における障害学生数は、33,812人(全学生数の1.05%)で、2006年度から毎年度、その数字が増加しています。加えて、2012年の文部科学省調査によれば、「知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合」は、6.5%です。また、昨今、大人の発達障害が注目を浴びています。これらのことを踏まえ、館種を越えた共通の課題の一つとして、図書館利用に障害のある人々へのサービスに関する取り組みがあります。

図書館は、館種の違いこそあれ、様々な利用者に対して、彼らに合わせた資料の提供をする必要があります。墨字(点字に対する活字の別称)の資料だけでなく、視聴覚資料やデータベースといった従来のものに加え、大活字本や点字図書、点図資料、字幕・手話付き視聴覚資料、LLブック、DAISY図書等、様々な資料を提供できることが望ましいでしょう。

しかし、少数派へのサービスを鑑みれば、単独の組織での取り組みよりも、我々「神図協」のような横のつながりを活用することも、その解決方法の一

つとして良いと考えます。障害者差別解消法が2016年4月1日に施行され4年目に入り、見直しの必要性が叫ばれ、読書バリアフリー法案が今国会に提出される見通しが出ました。基礎的環境整備として様々な人に合う資料の製作・共有を実施し、その上で、個別の情報保障(合理的配慮)を実施できるような体制を整えるには、我々のような繋がりを、そのプラットフォームとして活用することが良いでしょう。

手前味噌で大変恐縮ですが、鶴見大学文学部元木研究室と大学課外活動団体の「情報バリアフリー推進会」では、栃木市大平図書館からの依頼に基づき、マルチメディア DAISY 図書を製作致しました。加えて、神奈川県内の郷土史を踏まえ、昔ばなし「ねこじた」のシナリオ、作画、朗読を担当し、公益財団法人伊藤忠記念財団の「わいわい文庫」2019年版にマルチメディア DAISY 図書として掲載され、全国1,201団体へ発送されたところです。

ご興味がある図書館のみならず、どうぞお気軽にご連絡ください。連携致しましょう!

## 平成 31 年度神奈川県図書館協会総会開催報告

平成 31 年度神奈川県図書館協会総会が、4 月 18 日（木）に神奈川県立図書館新館 4 階セミナールームにて開催されました。

本年度は役員改選期にあたるため、審議事項「1 役員を選出」が行われるまで、小林事務局長により議事進行が行われました。

田中和久会長が公務により欠席のため、田雑由紀乃副会長（横浜市中央図書館長）より、「館種の異なる図書館同士が一堂に集うことで、経験や知識を共有し高めていける。これから始まる人材育成事業等も活用して、各職員のスキルアップと図書館に対する愛着を深めてほしい」との挨拶がありました。

続いて、審議事項に入り、平成 30 年度事業実施結果及び決算について、平成 31 年度事業計画（案）及び予算（案）について、審議が行われました。審議事項については、原案通り承認されました。その他、報告事項として 90 周年記念事業の一環として本年より新たに始める人材育成事業について、概要の説明がありました。



表彰式では、会員施設に 20 年以上勤務した永年勤続職員 10 名、神奈川県図書館協会及び県内図書館事業に尽力し、功績のあった功労者 1 名 3 団体の表彰がありました。

講演会は、『日本の最も美しい図書館』の著者でいらっしゃる立野井一恵氏より、「コミュニケーションスペースとしての図書館」と題してお話いただきました。

### 【講演会概要】

#### 1. 企画意図となりたち

『日本の最も美しい図書館』は、私が全国の図書館を行脚して見所のある図書館をセレクトした本ではなく、出版社主導の企画で始まりました。この本の版元であるエクスナレッジは建築ジャンルに強く、これまでに『世界の夢の本屋さん』や『世界の夢の図書館』などを出版しています。次は建築視点から見た国内の図書館をテーマにした

本を作りたいということで、住宅雑誌の仕事に長く携わっていた私に声がかかりました。図書館を題材にした本ならば、全国の図書館が所蔵するのではないかというビジネス的な目論見もあったようです。

私は小さい頃から図書館が大好きで、住みたいと思っていたぐらいなので、このお話があった時はとても嬉しく、調査にも力が入りました。

#### 2. 掲載する図書館はどのように選ばれたのか

『日本の最も美しい図書館』では、国際的な賞の受賞作品や有名建築家による作品などの他、地域の地形を活かした構造になっているなど、個性的特徴を持つ図書館を 41 館紹介しています。掲載する図書館を選ぶ際には、外観、内観、書架などの写真のバランスが良く、「美しく機能的である」という点を重要視しました。

そのため、編集作業には、写真のセレクトにかなりの時間が割かれています。

建築の写真は、撮影する際に幾つかポイントがあり、プロの方でないとなかなか美しく撮ることはできません。例えば、外観ならば天気やアングル、周りの木々や人の往来等を気にしながら撮る必要があります。内観ならば、利用する人々の数や採光を考慮して撮影することになります。

採用した図書館の写真は、この本のためにカメラマンが現地で撮影したものだけではなく、掲載している図書館や別の機関から提供していただいたものもあります。候補になっていた図書館の中には、外観はきれいなのに内観や書架の写真があまりパッとせず、残念ながら掲載を見送るケースもありました。

#### 3. 執筆時のエピソードと苦労したこと

この本の紙面構成ですが、各館毎に、大きな写真を中心として図書館全体の雰囲気が分かるものを 3 枚程度は掲載するようにしています。よく読者の方から「本を読みました」と声をかけてもらいますが、1 館分の文字量は 400 字詰め原稿用紙 1 枚に収まる程度です。文章を添える際には、この写真の意味を喚起させるような建物としての見どころを中心に、蔵書についても少しですが、触れるように意識しました。

実は、私はこの本に掲載されている全ての図書館に実際に足を運んだわけではありません。写真や頂いた資料、自分で調べた内容を頼りに文章を書くこともあり、難しいと感じる場合もありました。該当の図書館に本の趣旨をご説明して資料の提供をお願いしても、利用案内等を送っていただくことが多く、なかなか建築そのものの歴史や機

能性に焦点を当てた資料がないのです。中には、自分が勤務する図書館を「美しい」と感じたことがないような方もいて、「うちの図書館は美しいのですか？」と逆に尋ねられるケースもありました。こんなに意識の差があるものかと驚いたことを覚えていています。

斬新な建物を見ると、建築家の方が創造意欲のままに自由に設計し、実際は使いにくいのでは？と思われる方もいるかもしれません。しかし、公共建築に関しては、長い年月利用されることを意識して、地域の特徴（採光や地形、気候などの機能面）とその場所にこの建物を建てる意義を、建築家自身もよく考えながら作りあげているものです。



掲載されている公共図書館の多くは、その土地のシンボル性や地域での活用を念頭に置いた建築になっており、大学図書館の多くは学生の学習意欲を喚起させるような雰囲気になっていました。

私自身は、地域の歴史をふまえて古い建物をリノベーションした図書館建築に特に感銘を受けました。リノベーションするとコスト削減になり、安く上がるような気がしてしましますが、実際には新築するよりもお金がかかることが多いです。地域住民の熱意に加え、形にするだけの技術と予算が必要なため、なかなか難しいにもかかわらず、長い時間をかけてリノベーションを成し遂げた建物は素晴らしいと思います。

#### 4. 刊行後の反響

これまで、図書館の使い方などをまとめた図書館ガイドは出ていましたが、建物を訪ねてみたくなるような本はあまりありませんでした。美しい写真と迫力あるレイアウトで図書館を紹介した本書は、若い人からの反響が思いのほか大きかったです。日本国内にも美しい図書館がある、という新鮮な驚きがあったようで、旅行の際に気になる図書館に行ってみたいという方もいました。

山梨県立図書館、北九州市立中央図書館など、映画「図書館戦争」の撮影で使われた図書館が掲載されていたため、映画ファンからも注目が集ま

りました。

実際に図書館を訪ね、美しい書架がある空間で本を広げる喜びをお手伝いできたとしたらとても嬉しいです。

#### 5. 図書館にもとめられているもの

本を収蔵して提供する場所というだけでなく、人が集まる拠点としての役割が期待されているのではないかと感じています。図書館単独の建物だけでなく、複合施設に入った図書館も増えています。様々な年代の方が図書館に興味を持ち、来館してもらうためには、居心地の良さも大切になってきます。

インターネットである程度の調査が可能になった今、利用者は、本の提供以外の $+\alpha$ を期待しています。本が好きだからこそ、素敵な空間で本の世界に浸りたい、自宅以外の場所でも本が読みたいという利用者は予想以上に多いと思います。賛否両論ありますが、くつろげるコンテンツのひとつとしてカフェを併設する等、快適に滞在できる図書館が求められているのではないのでしょうか。

---

### 平成 31 年度 表彰受賞者

---

★功労者 1名3団体 ( )内は推薦施設名

○宇都宮日美氏 (横浜市中)

読み聞かせボランティアグループ「めぐみ座」の代表を平成8年の発足時から務めるほか、横浜市中区の読書推進活動の中核的な取組である「なか区ブックフェスタ」の実行委員長を担うなど、個人としても様々に活躍しています。

○港北図書館修理ボランティア (横浜市港北)

週2回と活発な図書館蔵書の修理ボランティア活動を行うかわら、メンバー相互で難易度の高い修理技術について自主研修を行うなど、日頃より積極的に技能の向上に努めています。

○読みきかせボランティア MENDORI (川崎市立多摩)

設立以来、長年にわたり多摩図書館並びに区内の小学校の授業など多彩な活動を展開しています。メンバーのブラッシュアップにも努め、自主学習会を行ったり、後継者の育成にも力を注ぎ、ボランティア組織としての意識的な取組みに特徴があります。

○図書館とともだち・鎌倉 (鎌倉市中央)

鎌倉市図書館を応援するNPOとして様々な取組により20年に渡り活動を続けてきました。

図書館が毎年開催する「ファンタスティック☆ライブラリー」(図書館まつり)では、実行委員として企画段階から参加するなど、多様なイベントの成功に尽力しています。

★永年勤続職員 10名

小林利栄子（県立）、沖田香織（県立川崎）、高田高史（県立川崎）、菊池厚（横浜市南）、細川美穂子、盛岡絵理（川崎市立麻生）、小林恭子（藤沢市総合市民）、杉山友美（関東学院大）、古川裕子（フェリス女学院大）、田所恵理子（文教大学湘南図書館）

平成31年度 事業計画

- 1 図書館に関する調査研究
  - (1) 地域資料等の調査研究
  - (2) 大学図書館の調査研究
- 2 図書館活動の普及
 

○図書館活動についてPRを行う。

○協会ホームページのメンテナンス作業を実施する。
- 3 読書推進運動
 

○子ども読書活動推進フォーラムを県立図書館と共催する。
- 4 図書館職員の研修
 

○図書館員の資質の向上をはかるため、次の研修を充実させる。

  - (1) 見学（国会図書館、公共図書館、大学図書館）
  - (2) 講座（大学図書館研修、高齢者サービス、製本・修繕、YA サービス、障害者サービス、窓口サービス、図書館システム、図書館利用の推進、事例紹介 等）
  - (3) 児童担当者向け（県の子ども読書活動推進フォーラム、児童サービス、学校等他機関との連携、おはなし会 等）
  - (4) 視聴覚（著作権、視聴覚資料の構造・取り扱いについて 等）
  - (5) 図書館総合展フォーラム
  - (6) その他
- 5 機関紙、その他の印刷物の刊行
 

○「神奈川県図書館協会報」第267号～第270号を発行する。

○「神奈川の図書館2019」を刊行する。
- 6 図書館相互の連絡協調
 

○神奈川県図書館協会の運営その他に関して次の会議を行う。

  - (1) 総会 平成31年4月18日
  - (2) 理事会
  - (3) その他

○永年勤続職員及び県内図書館の功労者に対して表彰を行う。

※ 総会開催と同時に実施。

○大学図書館間における相互協力の推進を図るため次の事業を行う。

  - (1) 共通閲覧証による相互利用

7 人材育成事業

- 特定の研修への参加助成金の交付
- 研修結果の会員への周知

平成31年度 予算

<一般会計>

収入		(円)
分担金等収入	各館分担金	1,502,000
	個人会員会費	48,000
	日図協団体活動費	130,464
繰越金	前年度繰越金	932,527
雑収入	雑収入	20
合計		2,613,011
支出		(円)
事務費	事務局費	135,000
事業費		
会議費	会議費	61,000
調査研究費	調査研究費	122,400
	館員等研究費	517,000
広報活動費	会報等発行費	608,000
	図書館総合展費	332,000
表彰費	表彰費	106,000
記念事業等特別会計繰越金		0
予備費		731,611
合計		2,613,011

令和元年度 研修委員会 研修計画  
(令和元年5月30日現在)

	開催日	研修内容
施設 見学	7月2日(火)	神奈川県立生命の星・地球博物館
	7月18日(木)	国立国会図書館
	8月中～ 9月上旬	大学図書館（見学先未定） ※講座（研修）も同時開催予定 （内容未定）
講演	9月中旬	専門図書館の人材育成について ・県立川崎図書館における利用促進について（仮）
	10月上旬	窓口サービス担当者のための聴覚障がい者とのコミュニケーションの基本（仮）
	12月8日(日)	県子ども読書活動推進フォーラム（内容未定）

	開催日	研修内容
講演	1月	視聴覚サービス（著作権）（仮）
	2月	児童サービス～ブックトーク （グループワーク）（仮）
総合展	11月14日 （木）	図書館に新規利用者呼び込 む！図書館 de wikipedia タウン（仮）

### 平成31・32年度 役員名簿 （平成31年4月18日）

会長	田中 和久（県立図書館）
副会長	田雑 由紀乃（横浜市中央図書館）
理事	元木 章博（鶴見大学図書館）
	島田 圭（県立図書館）
	堀端 保聖（県立川崎図書館）
	沖間 俊明（横浜市中央図書館）
	小島 久和（川崎市立中原図書館）
	平松 恭輔（三浦市図書館）
	野田 仁（葉山町立図書館）
	石井 賢之（相模原市立橋本図書館）
	葉山 清美（厚木市立中央図書館）
	小林 裕治（平塚市中央図書館）
	田中 和也（秦野市立図書館）
	古矢 智子（小田原市図書館）
	三浦 敬（横浜市立大学学術情報センター）
	森岡 緑（横浜国立大学附属図書館）
	奥村 裕司（相模女子大学附属図書館）
中嶋 卓雄（東海大学附属図書館）	
新中 新二（神奈川大学図書館）	
長野 敏昭（県立公文書館）	
監事	山本 長史（県立かながわ男女共同参画センター）
	編田 照茂（県立地球市民かながわプラザ）

事務局長 小林 利幸（県立図書館）

※ただし、6月1日付県の定期人事異動に伴い、次のとおり交代。

会長	田中 和久 → 松井 聡明
理事	島田 圭 → 渋谷 佳代子

### 平成31・32年度 委員会名簿 （◎は委員長）

<企画委員会>

- ◎小島 久和（川崎市立中原）
- 古矢 智子（小田原市）

- 稲葉 伊岐子（横浜市中央）
- 葉山 清美（厚木市立中央）
- 石井 直美（横浜市立大学）
- 佐々木 友香（公文書館）
- 鈴木 めぐみ（県立）
- 山内 正伸（横浜市中央）
- 牧 幸男（鶴見大学）

<広報委員会>

- ◎古矢 智子（小田原市）
- 奥村 由香（県立）
- 井上 美穂（横浜市中央）
- 菅井 紀子（県立川崎）
- 小林 菜摘（川崎市立多摩）
- 河合 典子（鎌倉市中央）
- 藤巻 美由紀（綾瀬市立）
- 岸 明子（関東学院大学）
- 三好 由美（相模女子大学）
- 佐々木 友香（公文書館）

<大学図書館協力委員会>

- ◎河西 徹（横浜市立大学）
- 牧 幸男（鶴見大学）
- 舟本 幸福（横浜国立大学）
- 古越 奈央（相模女子大学）
- 紅谷 龍司（東海大学附属中央）
- 松浦 晴美（関東学院大学）
- 堀江 美由紀（神奈川大学）

<地域資料委員会>

- ◎稲葉 伊岐子（横浜市中央）
- 小林 利栄子（県立）
- 植原 由佳（川崎市立中原）
- 利根川 博（逗子市立）
- 葉山 敦美（座間市立）
- 松瀬 智子（藤沢市総合市民）
- 浅利 典江（東海大学）
- 宇佐美 恒城（近代文学館）

<研修委員会>

- ◎葉山 清美（厚木市立中央）
- 白石 智彦（県立）
- 土岐 千尋（横浜市中央）
- 沖田 香織（県立川崎）
- 盛岡 絵理（川崎市立麻生）
- 深水 賢一（横須賀市立中央）
- 岩永 知子（相模原市立橋本）
- 萩原 郁美（厚木市立中央）
- 腰越 未樹（平塚市中央）
- 吉岡 伸恵（秦野市立）
- 山田 広樹（大磯町立）
- 佐藤 友佳（南足柄市立）
- 森岡 緑（横浜国立大学）
- 永沼 知之（神奈川大学）
- 宇佐美 恒城（近代文学館）

神奈川県図書館協会

# ！人材育成事業 はじまります！

神奈川県図書館協会では、2018年に迎えた創立90周年を記念し人材育成事業を行います。

この事業では、外部団体の研修へ参加する機会を増やし、会員の資質向上を図り、神奈川県全体の図書館司書の力量を高めることを目的に、会員のみなさまを対象に、2019年度～2023年度までの5年間、あらかじめ定められた研修に参加する際の経費を全額または一部助成します

## 助成対象事業

- ①【公共・大学・専門】 専門図書館協議会全国研究集会 6月末頃
- ②【公共・大学・専門】 全国図書館大会 10月～11月頃
- ③【公共】 関東・甲信越静地区 図書館地区別研修 11月～12月頃
- ④【公共】 全国公共図書館研究集会（サービス、総合・経営部門）11月頃
- ⑤【公共】 全国公共図書館研究集会（児童青少年部門）1月頃（※隔年開催）

※ ①については初年度は対象としない。

※ ③以外は全日程参加（情報交換会等は除く）③は概ね3日以上参加を原則とする。  
（研修日程の概ね4/5以上を受講し、研修成果について、研修終了後2週間以内にレポート（1,200字程度）を提出した者に修了証書が授与されるため）

※ 本県での開催となった場合は、助成対象とするか適宜検討する。

## 助成対象者

神奈川県図書館協会加盟館に勤務する職員であること。ただし、過去に当該助成を受けたことのある職員は除くものとする。

## 募集開始時期 7月上旬開始！

※ 別途、詳細な募集要項を協会ホームページでお知らせします。

**多くのみなさまのご応募をお待ちしております！**

発行：神奈川県図書館協会 〒220-8585 横浜市西区紅葉ヶ丘9-2 神奈川県立図書館内 TEL (045) 263-5900 編集：広報委員会

総会決議事項を転載した箇所につきましては、「平成」の元号を用いております。